

学校教育目標	夢と希望と輝きをもつ 児童の育成	〔ミッション〕 ふるさと原を誇りに思い、生き生きと輝いて21世紀の社会に貢献できるよう、自分で考え自分で行動する子どもを育てる。
		〔ビジョン〕 ・自由で主体的な学校 ・風通しのよい職場 ・地域を大事にする学校
経営目標に向かう ストーリー	☆七尾中校区、本校の研究テーマに共通している「自分の考えを持ち、説明する力の育成」に基づき、表現力の向上を目指した授業づくりを行う。 ☆行事等を通して地域の方々に親しみ、日頃のあいさつや会話等を通して感謝の気持ちを持つことにより、地域貢献への意識を涵養する。	

評価計画				昨年度末	目標値	第2回中間	第3回最終	達成度	評価
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための 方策	評価指標						
①【学習指導】 主体的、意欲的に学ぶ児童を育成し、確かな学力を身につける	◎学校全体で授業交流の活性化を図り、教師の授業力を向上させる	・視点を明確にした研究授業に各担任が年一回以上取り組む。 ・ロイロノート、グループワークスペース等の活用例 FreeWaiWai 等で交流する。 ・1学期と2学期に1単元以上の「個別最適な学び」を視点とした授業に取り組む。	・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の育成【市共通項目】市目標値 85% ※全国学力・学習状況調査児童質問紙の肯定的評価からの数値と自校アンケートから ・「理由をつけて考えを表現することができている」児童評価【校区共通項目より】 ・標準学力調査ステップ別人数比における達成率（ステップ3・4・5の割合）国語・算数	82% （全国学力） 75% （自校アンケート）	85% （全国学力） 85% （自校アンケート）	87.5% （全国学力） 85% （自校アンケート）	87.5% （全国学力） 87% （自校アンケート）	103% （全国学力） 102% （自校アンケート）	A （全国学力） A （自校アンケート）
(修正)				81%	85%	87%	83.6%	98%	B
②【生徒指導】 自分を大切にし、友達を大切にし、共に頑張ろうとする心と根気強く取り組む力を育成する	・望ましい生活習慣の定着を図る ◎児童の自己有用感を高める 【校区共通項目】	・生活ふり回り週間の取組を継続し、日々の生活習慣について、目的意識をもたせ、個に応じた具体的な方法を指導する。 ・自他の良さを互いに認め合える活動の場づくりと評価の工夫を行う（「かがやきの木」の全校への紹介・縦割り班掃除等の取組）	・「相手の方を見て挨拶をする」児童評価（生活振り返りカード④） ・「わが子は、家庭・地域・学校などの場で挨拶をしている」保護者評価 ・人の良さを見付けて、1週間に3回以上「かがやきの木」に書く（発表する）児童評価（生活振り返りカード⑤）	92%	90%	98%	93%	103%	A
(修正)				64%	75%	78%	81%	108%	A
③【開かれた学校】 地域・保護者との連携を深め、信頼される学校づくりを進める	◎学校運営協議会内での連携を核として、児童と地域とのつながりが深まる教育活動を推進する ・学校からの積極的な情報発信を行い、児童に関わる課題を保護者と共有し課題解決に努める ・学校全体で業務改善を推進し教職員が主体的に課題を解決する組織風土を醸成する。	・地域と学校の協働により、児童の資質・能力・態度を育成する ・児童の学習面や生徒指導上の課題に対して、迅速に対応する ・業務改善を行い児童と関わる時間や教材研究の時間を確保する	・「地域の人材とのつながりを広げたり、深めたりできた」教師評価 ・「自分は地域（原）が好きであり地域に役立ちたいと思っている」児童評価 ・「学校は我が子の相談に丁寧に応じてくれる」保護者評価 ・「児童の課題に対し迅速に対応し、教職員間で連携して取り組んだ」教師評価 ・「仕事に意義とやりがいを感じ主体的に児童と関わったり教材研究に取り組んだりした」教師評価	100% （数値）	100% （数値）	100% （数値）	100% （数値）	100% （数値）	A
学校における働き方改革を推進し働きやすい職場を目指す				92% （元量）	90% （元量）	98% （元量）	93% （元量）	103% （元量）	A
(修正)				93%	100%	100%	100%	100%	A
				100%	100%	100%	100%	100%	A
				100%	100%	100%	100%	100%	A



・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の育成」の児童アンケート 87.5%で、目標値を達成することができた。高学年では、宿題等を期限内にやって提出するというスタイルを取り入れ、自分のペースで見通しをもってやりきる取組を行っており、低学年の時点からこれをめざした取組を進めていることが結果につながっている。 ・「理由をつけて考えを表現することができている」の児童評価は、87%で、目標値を達成している。低学年では、自分の考えを発表した後、教師が「どうしてそう思ったの？」等と切り返して問うことで、考えた理由を自然と発言する雰囲気づくりを行った。担任が「もう一度言ってみよう」と声をかけて、同じ意見でも自分の言葉で表現させようと心掛けた。 ・課題として、自分の思いを言葉で伝えることはできるが、文章で表現する力が定着していない。「〇行で書く」、「●●のキーワードを入れて書く」など、条件に合わせた自分の考えの表現の仕方を指導していく。具体的な方法として、授業で自分の考えを書く時間を十分確保してから発表させたり、条件を指定して書かせたりする。また、ノートだけでなく、場合によってはICT機器を使っている表現も方法の一つとして取り入れていく。	・「相手の方を見て挨拶をする」児童評価目標値90%に対して、それを上回る98%の肯定的評価になった。また、「わが子は、家庭・地域・学校などの場で挨拶をしている」保護者評価も目標値75%を上回る78%になった。特に保護者評価は昨年度末の64%から大きく数値が上がった。1学期、2学期と挨拶に対する取組を行い、9月は地域・家庭の人に挨拶をしていこうと児童に呼びかけたことがよかったのではないかとと思われる。今回取り組んだ「あいさつの木」を今後発展させて、次に繋げていく。 ・「人の良さを見付けて、1週間に3回以上「かがやきの木」に書く（発表する）」児童評価目標値90%に対して、53%という低い評価になった。昨年度末に生活振り返り週間での取組の際には「児童一人当たり5枚ずつ配布し、必ず誰かに書いてもらえるよう取り組む」としていたにも関わらず、それを実施できていなかった。次回の生活振り返り週間の際には、児童が主体的に「かがやきの木」を書けるよう仕組んでいく。学校行事等で、書く場を設置し保護者にも協力していただき、その意義を児童と共有していきながら取組を進めていく。	・8月実施の熟議で、教職員と学校運営協議会・地域学校共同本部の皆様と地域のよさを生かした学習について深く話し合うことができ、今後の学習活動に大いに役立つとともに、地域の人材とのつながりを広げることができた。地域・保護者と連携した学習も進めており、米作りやサツマイモ栽培、鼓笛隊活動等の原小学校の伝統的な学習活動を継続するとともに、「ハラっぱマルシェ出店」等の地域行事参加、高齢者施設との交流、植栽活動など、今年度より開始、復活させる活動の取り組みも始めている。アンケート結果からも、地域学習や地域の支援への教職員、児童の満足度はともに大変高く、地域への貢献的な活動に対しても意欲的である。 ・学校教育目標に向かって教職員のやりたいことを支援し、働き方改革を進めている。教職員個々の強みを生かし、チャレンジを支えること、課題に対してチームとして積極的に力になろうとすることのできる心理的安全性の高い教職員同士の関係ができています。また、「紙面力エル会議」として、全教職員からアイデアを募集して業務の効率化を図り、すでに5つ実現させている。今後さらに取組を続け、教職員全員が達成感を味わえるようにしていきたい。
---	---	--

第2回(中間) 10月16日 学校運営協議会

・声が良く出ていると感じた。みんなの話を聞いて自分の意見を高めていけると思う。 ・書くことに関しては、大人になっても大事。パソコン・スマホの時代だが、力を伸ばしてほしい。 ・子ども達に考え、工夫させることを大切にされていると感じた。先生方は、どんな意見も、「よく気付いたね。」「すごいね。」と認めて児童が安心して力を発揮できるよう心掛けている。 ・挨拶については、昨年より今年のほうが挨拶をしている姿を見かけることも増えた。コロナも明け、地域との交流が再開したことで地域に顔見知りが増えたのも一因かと思う。 ・6年生の学年発表朝会で自信をもって発表する高学年の姿を見て下学年が感想を述べる取組が素晴らしかった。その取組を続けていってほしい。 ・「かがやきの木」の取組は、時間を取り、伝え合う時間をつくって自発的に書いていけるようにする取組を行ってほしい。 ・教職員の心理的安全性が高く、職員室が心の安定の場となっていることについては、自分の職場でも参考にしたいと考えている。

結果と課題の分析・改善方法等

【修正】 ・文章表現の力を伸ばす取組を様々な機会を有効に活用して行っていく。 ・各学年の取組を共有する機会を設ける。	【修正】 ・挨拶への取組の継続を行う。 ・「かがやきの木」の取組の意義について教職員・児童への再確認の場の設定と児童が書く、伝え合う時間の確保等の改善を図る。	【修正】 ・職員の心理的安全性を継続して確保するうえで、業務改善へのより一層の努力を行っていく。
--	---	---

- ・「理由をつけて考えを表現することができている」の児童評価は、83.6%で、目標値には達しなかった。中間期からも3.4%下回る結果となった。学年ごとにも結果に差があった。低学年では、自分の考えや思いに自信がなかったりどのように言えればいいかわからなかったりすることが原因と考えられる。また、自分の考えは言えるが教師が「どうしてそう思ったの？」と問わないと理由が言えない状況もあった。
- ・「表現すること」にも「話す」「書く」など様々な種類があるが、まずは話すことに重点をおいていきたい。自分の思いや考えを話すときには、常に相手意識をもつことができるようにしていく。「～だから」「だって～」「なぜなら」などのキーワードを児童と職員で共通理解し、教師は肯定的な評価をすかさずしていき、理由をつけて発表するよさを価値づけさせていきたい。
- ・標準学力調査ステップ別人数比における達成率（ステップ3・4・5の割合）について、国語科では70%という結果になった。目標値85%を達成することはできなかった。主に「情報の扱い方に関する事項」に関する誤答が多く、たくさんの資料から必要な資料を選び、資料と資料を組み合わせて答えを導き出すことに課題があると考え。算数科においては、79%という結果になり目標値85%を達成することができなかった。自分に必要な学習は何かを児童自身に考えさせたり、身の回りから問題を提示したりするなど、実態に合った指導を行う必要があると考える。今後も継続して、児童一人一人の実態を分析し、個にあった学習することができるように、指導方法を見直していく。

- ・「相手の方を見て挨拶をする」の児童評価は、中間期の98%という肯定的な評価を下回ったものの、目標値90%に対して、93%の肯定的評価であった。また、「わが子は、家庭・地域・学校などの場で挨拶をしている」保護者評価は、中間期の78%を上回る91%の肯定的評価となり、目標値の75%を大きく上回っている。昨年度末の評価が64%であったことから考えると大きな変化である。しかし、児童のA評価65%に対して保護者のA評価は33%であった。児童はしっかりと挨拶をしているつもりでも、その挨拶を受け取る側の心にはその挨拶が充分には届いていないということである。この結果を受けて2月の生活目標である「相手に伝えるあいさつをしよう」に取り組む。
- ・「人の良さを見付けて、1週間に3回以上「かがやきの木」に書く（発表する）」児童評価は、中間期よりは6ポイント上がったものの、目標値90%に対して、59%という低い評価のままとなった。しかし、中間評価においてD評価の児童が40%であったのに対し、今回は24%と減少している。これは、生活振り返り週間に一人あたり3枚のカードを配布しての取組をしたことによる結果であると考え。運動会や学習発表会での保護者や地域の方々からのカード、12月から2月初旬まで行った「かがやきの木紹介放送」に加えて、児童の意欲を高めるためのさらなる「仕掛け」を練っていきたい。

- ・教職員と学校運営協議会・地域学校共同本部の皆様とで話し合った熟議の成果を生かし、米作りやサツマイモ栽培、鼓笛隊活動等の原小学校の伝統的な学習活動を今年度も継続することができた。また、敬老会や「ハラっぱマルシェ出店」等の地域行事参加、高齢者施設との交流、地域への植栽活動なども実施し、活動の幅を広げることができた。「地域の人材とのつながりを広げたり、深めたりできた」（教師評価）100%、「自分は地域（原）が好きであり地域に役立ちたいと思っている」（児童評価）93%と、アンケート結果からも、地域学習や地域の支援への教職員、児童の効果はともに大変高いことが伺える。学校周辺の道路清掃など、児童は地域への貢献的な活動に対しても意欲的である。
- ・学校教育目標に向かって教職員のやりたいことを支援しつつ、働き方改革を進めている。教職員個々の強みを生かし、チャレンジを支えること、課題に対してチームとして積極的に力になることができる心理的安全性の高い教職員同士の関係ができている。アンケート結果からも、教職員がやりがいを感じながら子ども達と向き合い、力量の高まりを感じることができたとの回答が100%であった。また、「紙面カエル会議」として、全教職員からアイデアを募集して業務の効率化を図り、年間10件実現させた。今後さらに取組を続け、教職員全員が主体的に生き生きと働く職場づくりに努力していきたい。

- ・落ち着いてどの学年も授業ができていてほっとした。どの子も一生懸命であった。
- ・5・6年生に欠席者がいない（不登校児童がいない）のありがたい。中学校の教員に伝える。
- ・自由進度もいいが、従来の教え方も大切にしていきたい。子ども達と先生の近い関係が見られてよかった。
- ・紙面力エル会議はいいと思った。勤務時間の長短だけでなく、教員の秘めたアイディアの実現は、ストレス軽減、やりがいにつながる。勤務時間も45Hに収まるとさらによい。先生の元気が素敵。
- ・先生方の強みを生かすのは素晴らしいことだ。
- ・先生方にはゆとりをもってほしい。勤務時間を減らすことで仕事の持ち帰りが出ないようにしてほしい。
- ・先生の元気が気持ちの余裕につながる。それは子ども達に影響していく。授業の生き生きとした様子は、それを表していたと思う。いろいろな職員の意見を取り入れていくことが大切だと思った。
- ・かがやきの木は、地域・保護者のみんなが書いたものを行事で読み上げてくれたのがよかった。大人が書いて見本を見せれば、子ども達のかがやきの木の取組への意欲、質の向上が見られるのではないか。
- ・かがやきの木は書いた枚数の評価も大切だが、質の評価をしたらどうか。
- ・地域とのフェスタや地域清掃、植栽などでのかわりを地域でも進めたいが、地域の方でその体制がまだできていない。学校との関わりができるといい。

学校関係者評価を受けての次年度の方針・方策

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・つづやきを拾って進めていけるような授業の工夫、児童との関係づくりを大切にしていく。 ・児童一人一人の実態を分析し、個に応じた手立てを工夫し、指導方法を見直して、「できた」を実感させる授業を行う。 ・基礎的な問題だけでなく、思考力を問うような問題や複数の資料から必要な情報を読み取ることができるような取り組みを授業内で行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感の取組を、工夫し、かがやきの木だけでなく幅広く取り組むことで育んでいく。また、活動の見直しとともに自己有用感の評価指標も新たに設定していく。 ・かがやきの木カードでは、気づきの視点の良さを評価する方法を検討していく。 ・不登校対策について、来年度に向けて取組を強化していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・紙面力エル会議の継続と心理的安全性の高い職員室の維持向上に計画性をもって取り組む。 ・地域からの申し入れを待つだけでなく、地域へのかかわりを積極的に提案していくよう、各学年の総合的な学習の時間等の取組を見直していく。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校共同本部と学校との関りをより密にして、今年度創設した「居場所づくり」のような取組を増やし、不登校対策や新しい活動の創設につなげる。 | | |